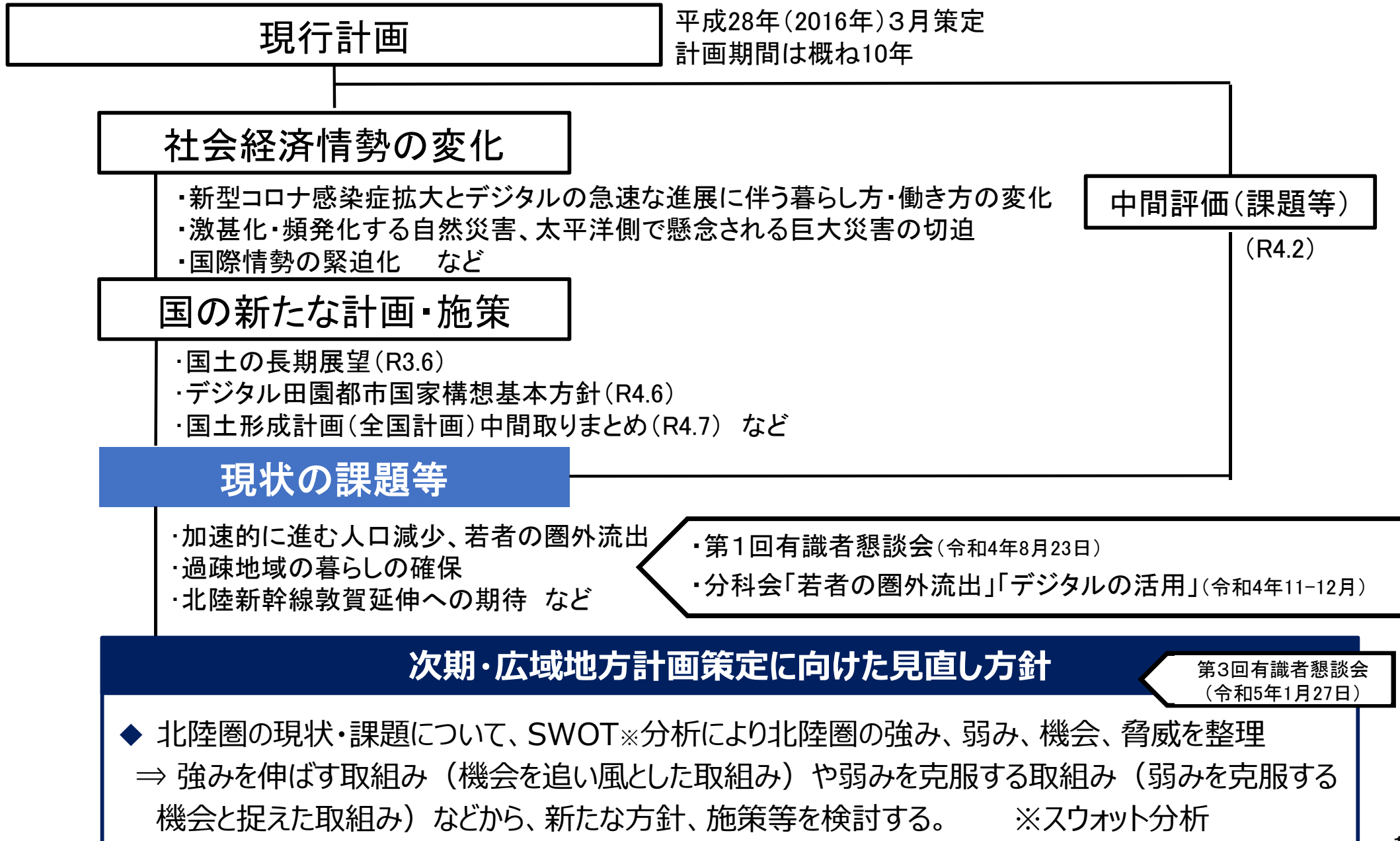


次期・北陸圏広域地方計画検討にあたっての考え方

■ 現行計画に対する課題と次期計画への見直し方針



第1回有識者懇談会の意見の反映(SWOT分析)

	プラス面	マイナス面
内部環境	<p>■ 強み (Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て環境が充実、学力が高い ○ 都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる居住環境 ○ 豊かな自然、豊富な水 ○ 歴史・伝統文化、食文化、雪国の文化 ○ 特徴あるものづくり産業、最先端技術を活かした世界ニッチトップ企業の集積 ○ 高い再生可能エネルギー導入ポテンシャル ○ 三大都市圏と等距離の地理的条件 ○ 太平洋側のバックアップ機能 	<p>■ 弱み (Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国平均より進む人口減少、少子高齢化 <ul style="list-style-type: none"> ・若者の圏外流出(特に女性の圏外流出)が多い ・地方は人の移動が少なく、価値観が固定されやすい ・医療・インフラの維持が困難、防災・福祉の地域力低下 ・農業従事者の減少と耕作放棄地の増加 ○ 若者や女性にとって魅力的な仕事、働く場所が少ない <ul style="list-style-type: none"> ・第三次産業の種類が少ない、希望職種が少ない ○ 風水害や土砂災害、豪雪等の厳しい自然環境
外部環境	<p>■ 機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル技術の進展 <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの普及、スマート農林水産業など ○ 北陸新幹線の敦賀延伸 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸ではほぼ全ての地域生活圏で新幹線駅を持つこととなる ○ リニア中央新幹線(品川-名古屋間開業) <ul style="list-style-type: none"> ・三大都市圏が一体化した新たな交流圏の形成 ○ 太平洋側での巨大な災害リスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震、首都直下型地震など ○ カーボンニュートラル <ul style="list-style-type: none"> ・2030年度に温室効果ガスを46%削減(2013年度比) ・2050年までにカーボンニュートラルを実現 ○ SDGsが求める幅広い社会的要請 	<p>■ 脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害の激甚化・気候危機 <ul style="list-style-type: none"> ・洪水、土砂災害などの近年の激甚化・頻発化 ・ハード面の災害対策(適応策)の遅れ、限界 ○ 地震災害リスク <ul style="list-style-type: none"> ・北陸の活断層が動く可能性など

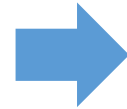
第1回有識者懇談会の意見の反映(SWOT分析)

■ 有識者懇談会からの意見の反映

強み

×

機会



「強み」で「機会(チャンス)」を活かす取組みへ

強み

×

脅威



「強み」で「脅威」を克服する取組みへ

弱み

×

機会



「弱み」を克服する「機会(チャンス)」と捉えた取組みへ

弱み

×

脅威



「弱み」を改善して最悪の事態を招かない取組みへ

「若者の圏外流出」分科会からの提言 の反映

若者の圏外流出分科会の提言

〔北陸圏が目指すべき方向〕

- 若者が一旦圏外に出て暮らすことは、北陸圏の長所、短所を知る機会にもなるので、肯定的に捉えることも必要。
- 若者が北陸圏で暮らしたいと思えるような寛容性や幸福度が感じられる地域社会を構築していくことが必要。
- 若者が北陸圏に親しみを感じてもらうためには、若者だけでなく、そこに暮らす中高年世代の意識を変えていく事が必要。
- 北陸圏をもっと知るため、様々な世代が、住民主体で行うまちづくり活動などの地域活動に参加すること(シティズンシップ教育)を啓発することが必要。
- 北陸圏に就業・就農を考える若者に対して支えていく仕組みを構築することや北陸圏の企業の情報発信していくことともに、企業の圏外からの誘致や、新産業の育成に取り組むことが必要。

「若者の圏外流出」分科会からの提言 の反映

若者の圏外流出分科会の提言

〔提言〕

- 北陸地域に関心を持ってもらうため、北陸圏内外の若者に対し、北陸地域を知る機会、学ぶ機会を増やすこと。
- 北陸圏で起業・就業(例として農林水産業、情報通信産業、観光業など)を検討している若者を支援する中間支援組織を育成することの重要性を発信していくこと。
- UJI ターン希望者を含めた全世代に対して北陸圏に存在している企業の魅力を積極的に情報発信していくことや、企業の誘致・新産業の育成に取り組むこと。
- 中高年世代が様々な世代との交流を体験できるリカレント教育の機会を増やすこと。そこにおいては参加者が様々な立場を体験できるカリキュラムを用意することが重要。

「デジタルの活用」分科会からの提言 の反映

デジタルの活用分科会の提言

[提言（北陸圏におけるDX推進にあたっての基本的な考え方、取組みのスタンス）]

- 北陸圏で急激に進む人口減少・人口流出と、地域の利便性低下、地域経済の衰退等の悪循環に対応するため、あらゆるデジタル技術を徹底活用することにより、リアル空間における生活の質の維持・向上を図ることが重要である。
※「人々の暮らし」への意見に対応
- デジタルの活用により、公共交通などの様々な地域課題の解決や、農林水産業・製造業・サービス業それぞれの活性化、地域振興を図るためには、産・官・学・地域住民等、あらゆる関係者が連携して取り組むことが重要である。
また、北陸圏における地域の関連産業・企業間の連携強化を行い、地域経済循環を促進する。
※「人々の暮らし」「産業振興・地域振興」等への意見に対応
- 地域の自然環境の保全や歴史文化と調和したまちづくりに留意しつつ、テレワークの普及やデジタルを活用した情報発信等により、国内屈指の暮らしやすさや自然、食文化等に恵まれた北陸圏の魅力を最大限活かし、地方移住や二地域居住の促進、関係人口の拡大、広域観光の展開、特産品のPR等の取組みの推進が期待される。
※「人々の暮らし(働き方・移住)」「地域振興・観光」への意見に対応

(次のページにつづく)

「デジタルの活用」分科会からの提言 の反映

デジタルの活用分科会の提言 (つづき)

[提言 (北陸圏におけるDX推進にあたっての基本的な考え方、取組みのスタンス)]

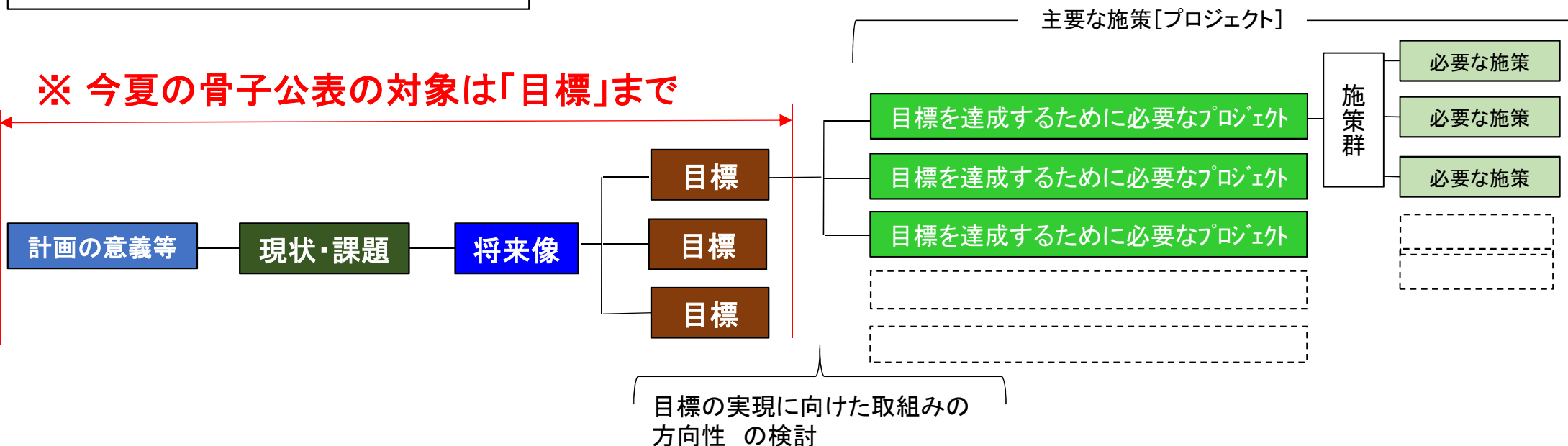
- デジタルの活用によるカーボンニュートラルの実現や資源の地域循環の取組み、並びにエネルギーマネジメントの取組みが重要である。
※「カーボンニュートラル・環境」への意見に対応
- 防災面においてもデジタルを活用し、除雪作業の効率化や省力化を図るとともに、北陸圏で懸念される自然災害に対して適時・的確な防災情報の提供や被害を最小化するための被害情報の把握・共有等を行い、地域の安全・安心を確保する。
また、太平洋側での巨大災害に対し、日本海側の中核に位置する北陸圏が支援を行う。
※「防災」への意見に対応。◎北陸ならではの課題
- 高齢者等への配慮、デジタル活用のメリットを受けられる環境の整備や支援が必要である。
また、デジタル活用の推進主体に対する支援や環境整備、人材の育成等が課題と考えられる。
※「取り組み方等」への意見に対応

二つの分科会からの提言も踏まえ、次期計画案の検討を行う。

次期広域地方計画の検討：計画の体系

計画策定に係る体系ツリー

※ 今夏の骨子公表の対象は「目標」まで



今夏の骨子公表の対象は「目標」まで

- 計画の意義等：序文(計画の意義)、対象区域、計画期間など
- 現状・課題：ブロックの現況(強み、弱み、取り巻く環境(の変化)等)について分析したもの、対応すべき課題
- 将来像：課題を踏まえて目指す地域の概括的な方向性
- 目標：将来像で示された概括的な方向性を分野ごとに具体化したものを、計画を通じて目指すべき目標として記載
- プロジェクト・施策：「目標」を達成するために、広域の見地から行う必要がある主要な施策を記載

次期広域地方計画の検討①：将来像

■ 現行計画の将来像 ※二つの将来像を設定

【現行計画・将来像1】

暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く 新・北陸

【現行計画・将来像2】

三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引する 新・北陸

□ 次期計画の将来像の設定について

北陸圏の現況と課題、対応方針を踏まえて目指す概括的な方向性を「将来像」として示す。

※「将来像」の検討にあたっては、新たな全国計画で示された国土の形成に関する基本的な方針等を踏まえることとし、内容を具体的にイメージできるよう分かりやすい表現とする。

「広域地方計画に関する策定の枠組み及び進捗管理等の方針」

R4.3 国土交通省国土政策局 広域地方政策課より

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会情勢等の変化は見られたものの、現行計画の目指す方向性自体は変わらないものと考え、現行計画の将来像や目標の理念は踏襲するものとする。

■ 次期計画の将来像(案)

【将来像(案)】

住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸

次期広域地方計画の検討①：将来像

[北陸圏の現状・課題]

- ・加速的に進む人口減少、特に若者の圏外流出
- ・サービス維持の困難な状況が進む公共交通や医療等の暮らしに不可欠な機能の確保
- ・全国的に激甚化・頻発化する自然災害への備え
- ・サプライチェーンの国内回帰等も見据えた企業・工場の誘致や優秀な人材の確保・雇用促進
- ・北陸新幹線敦賀延伸等を活かした北陸圏のさらなる魅力向上、地域活性化のための交流・関係人口拡大の取組み など



課題を踏まえ、目指す北陸圏の将来像

これまで「暮らしやすさ」が評価されてきた北陸圏において、デジタルの活用などにより、居所・世代・性別・出身地等を問わず、誰もが住み心地(すみごち)、居心地(いごち)がよいと思える北陸の姿、社会経済・人々がいきいきと活動する北陸の姿を将来像として設定。

将来像 案 『**住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸**』

次期広域地方計画の検討①：将来像

□ 次期計画の将来像(案)：『**住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸**』

将来像の
具体的な状態

- ・ 多様な価値観、ライフスタイル、ライフステージに応じた暮らし方ができる。
- ・ 自然災害に対して安全・安心な暮らしが確保されている。
- ・ **自分たちが住む地域に愛着が持てる。**
- ・ **就きたい仕事や挑戦したい仕事**があり、経済的にもゆとりが持てる。
- ・ 保育・教育・医療・福祉が充実。買い物や交通に不自由せず時間的制約を受けない。
- ・ 豊かな自然と人々の暮らしが調和し、**地域循環共生圏、脱炭素社会が実現される。**
- ・ UIJターンや二地域居住など、圏域内外の人々から「暮らす場所」「働く場所」として選ばれる。
- ・ 地域の特産品(農産物、水産物)や食文化の人气が高まる。
- ・ 技術革新やニーズの先取りにより、北陸で生産する製造品や技術力の評価が高まる。
- ・ サプライチェーンの国内回帰や太平洋側で懸念される巨大災害に対する機能分散も含め、生産拠点や本社・サテライトオフィスの適地として多くの企業が進出する。
- ・ 国内旅行、インバウンド、ワーケーション等の訪問先として多くの観光客が訪れる。
- ・ 伝統工芸品や観光資源等の価値の認識が高まる。
- ・ **北陸ファンやゆかりのある人など関係人口が拡大し、つながりが強くなる。** など

「心」:人々の価値観

「地」:地域、フィールド



「心地よい」

利便性・安全性が確保され、多様な価値観が受け入れられる快適な暮らしの実現



一人一人が真に幸福感を実感
社会経済が躍動

次期広域地方計画の検討②：目標

■ 将来像案

『住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸』

『住み心地・居心地のよい北陸』
のための目標

目標 1 北陸圏での魅力ある暮らしの実現

～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

- ① 北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現
- ② 都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現
- ③ 自然災害に強い暮らしの実現
- ④ 美しい豊かな自然環境の保全

『多彩な魅力を活かして躍動する北陸』
のための目標

目標 2 競争力のある産業の育成

～北陸における経済・生産の一層の活性化～

- ① 活力に満ちた農林水産業の形成
- ② 競争力と魅力がある産業の形成・活性化
- ③ 新たな需要を取り込み地域産業の活性化

目標 3 日本海側の中核圏域の形成

～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

- ① 北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

目標 4 交流・関係人口の創出

～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

- ① 北陸圏の魅力を活かした観光の活性化
- ② 三大都市圏等との新たな交流
- ③ 様々な人とつながる北陸圏

次期広域地方計画の検討②：目標

目標1 北陸圏での魅力ある暮らしの実現 ～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

①北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現

- ・ 様々なライフステージにおいて北陸圏内での就業や暮らしを選択する若者、女性、子育て世代、シニア世代などが増加し、地域コミュニティが活性化
- ・ テレワークやオンライン会議等の普及により、効率的な時間の使い方ができるようになり、「自分時間」がつかれる暮らし方・働き方のできる地域が実現
- ・ 北陸圏の企業、地域社会などでダイバーシティが推進され、人々がライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる地域が実現
- ・ 女性就業率の更なる向上や様々な機会・場面での女性の社会参加が拡大することで、女性が活躍し輝く地域が実現
- ・ 時間的・経済的にゆとりがある子育て世代が増え、安心して子供を産み育てられる地域が実現
- ・ 北陸圏で若者が就きたい・挑戦したい業種、職種の企業が増加し、優れた人材が北陸圏に定着
- ・ 里山里海等の美しい田園風景など北陸圏の資源・魅力などを理解する若者が増え、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

(目標1 つづく)

次期広域地方計画の検討②：目標

目標1 北陸圏での魅力ある暮らしの実現 ～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

(目標1 つづき)

② 都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現

- ・ 北陸圏域内における公共交通等の利便性が確保・向上され、各都市内や都市間での流動が促進されることで、富山県、石川県、福井県が連携した都市機能等の相乗効果を発揮
- ・ 人口減少下においても地域での生活サービスレベル等の低下が抑制されることで、暮らし続けられる地域が実現
- ・ 歴史ある町並みや美しい景観等の保全のほか、交通事故の減少による安全な移動空間が確保され、北陸圏の優れた住環境を形成
- ・ 里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人が増え、三大都市圏など他圏域との関係人口の拡大をきっかけに、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

③ 自然災害に強い暮らしの実現

- ・ 地震や風水害・土砂災害など、激甚化・頻発化するあらゆる自然災害に対するリスクが低減され、北陸圏において災害に強い安全・安心な暮らしを実現
- ・ 短期間の集中的な大雪など北陸圏の特徴的な問題でもある雪害に対するリスクが軽減され、暮らし続けられる雪国を実現

④ 美しい豊かな自然環境の保全

- ・ 立山・黒部や白山などの山岳地帯から身近な里山里海までの生態系や健全な水環境が保全されることで、北陸圏の美しく豊かな自然環境を維持・形成
- ・ 水力や風力のポテンシャルのほか、水素等を活用した新エネルギーの導入や資源循環等により、北陸圏における脱炭素化を実現

次期広域地方計画の検討②：目標

目標2 競争力のある産業の育成

～北陸における経済・生産の一層の活性化～

①活気に満ちた農林水産業の形成

- ・ 農林水産業における生産性の維持・向上による食料の安定供給の実現。
- ・ 第一次産業への興味関心の高まりによる就業者の増加、農山漁村の活性化
- ・ 北陸圏が有する優れた特産品や食文化に対する人気が高まり、地域のブランド力が向上

②競争力と魅力がある産業の形成・活性化

- ・ 北陸圏において中核的な産業等の生産性が維持・向上するとともに、国際的にも競争力が高い産業が集積した地域の形成が実現
- ・ イノベーションの創出を生み出す新たな産業の創出が促進し、魅力的な産業が成長する地域が実現
- ・ 経済効果の高い滞在型旅行の拠点である宿泊施設や観光施設のリノベーション、観光 DXの推進などにより観光産業の収益力を向上し、観光産業の生産性向上と観光の質の向上により、「稼げる地域」が実現

③新たな需要を取り込み地域産業の活性化

- ・ 他圏域や海外などから北陸圏域内への本社機能・生産拠点等の移転が進むほか、新しい働き方等の普及によるサテライトオフィスやコワーキングスペースが増加し、地域産業が活性化
- ・ 太平洋側からの本社機能・生産拠点等の移転により、太平洋側で発生が懸念される巨大災害に対するリスクが軽減され、国内企業等の安定的な経済活動を実現
- ・ 北陸圏で開催される国際会議や展示会等が増加し、北陸圏を拠点とした国際的な交流が活発化

次期広域地方計画の検討②：目標

目標3 日本海側の中枢圏域の形成

～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

- ・ 高規格道路のミッシングリンクや幹線道路等のボトルネックが解消することで、信頼性が高く円滑な物流ネットワークの形成を実現
- ・ 北陸圏域内の港湾・空港における取扱貨物量が増加し、日本海側のゲートウェイ機能を果たすことで北陸圏域内や隣接圏域などの国際競争力が強化
- ・ 高速交通や圏域内の二次交通によるヒト・モノの流動が促進されることで、太平洋側圏域と連携した経済圏域の形成を実現
- ・ 日本海側の防災拠点やネットワークの形成が促進されることで、太平洋側で発生が懸念される巨大災害の発生時においても、国全体で社会経済活動の維持及び迅速な復旧・復興を実現
- ・ 北陸圏域内の港湾におけるエネルギー関連資源の取扱量が増加し、エネルギー受入・供給拠点としての役割が確立

次期広域地方計画の検討②：目標

目標4 交流・関係人口の創出

～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化

- ・ 広域周遊を含む質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築、北陸圏の伝統産業や歴史・景観・食文化などの観光資源の磨き上げ、コンテンツの充実化等により国内交流が拡大
- ・ 文化、自然、食、スポーツ等の分野で、伝統芸能等の特別な体験や自然を活用した体験コンテンツの高付加価値化や海外における北陸圏への誘客イベント等によりインバウンド観光が活性化

②三大都市圏等との新たな交流

- ・ 充実した広域交通により北陸圏域内の新幹線駅や空港の乗降客数が増加し、交通結節点やその周辺地域において三大都市圏や海外等との新たな交流を創出

③様々な人とつながる北陸圏

- ・ 里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人や北陸への思い入れのある人の拡大とつながりの強化

次期広域地方計画の検討③：目標の実現に向けた取り組みの方向性

目標1 北陸圏での魅力ある暮らしの実現～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

目標 [小項目]

- ① 北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現
- ② 都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現
- ③ 自然災害に強い暮らしの実現
- ④ 美しい豊かな自然環境の保全

取り組みの方向性

(1) 多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援

(2) デジタルを活用した「地域生活圏」の形成

(目標1 つづく)

SWOT分析による検討のポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取り組み

・「子育て支援・子育て環境が充実(強み)」
× デジタルの活用(テレワークの普及)
⇒ 子育て世代の暮らしやすさ・働きやすさのさらなる向上

・「若者の圏外流出(弱み)」
× デジタルの活用(若者にとって魅力的な仕事や企業、モノや情報の入手)
⇒ 若者のニーズ(就きたい仕事やライフスタイル)の実現、UIターン促進

・「豊かな自然、地域の歴史・文化(強み)」
× デジタルの活用(テレワークの普及)
× 新幹線等の高速交通の整備
⇒ 移住・二地域居住の増加

・「都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる居住環境(強み)」
× デジタルの活用
⇒ コンパクトなまちづくりの実現・拡充

・「人口減少・少子高齢化の進行(弱み)」
× デジタルの活用
⇒ 暮らし続けるためのサービスの提供(医療、福祉、交通、買い物等)

次期広域地方計画の検討③：目標の実現に向けた取組みの方向性

目標1 北陸圏での魅力ある暮らしの実現～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

目標 [小項目]

- ① 北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現
- ② 都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現
- ③ 自然災害に強い暮らしの実現
- ④ 美しい豊かな自然環境の保全

取組みの方向性

(目標1 つづき)

(3) 安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化・推進

(4) 豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり

SWOT分析による検討のポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組み

・「厳しい自然環境・災害リスク(弱み)」
× ハード面の災害対策の遅れ
⇒ 安全・安心な地域づくりのさらなる強化

・「厳しい自然環境・災害リスク(弱み)」
× デジタルの活用(情報共有、先端技術の活用)
⇒ 関係者の連携、ソフト・ハード対策

・「豊かな自然、潜在的な水資源(強み)」
× カーボンニュートラル
⇒ 脱炭素と地域循環共生圏の融合

次期広域地方計画の検討③：目標の実現に向けた取組みの方向性

目標2 競争力のある産業の育成 ～北陸における経済・生産の一層の活性化～

目標 [小項目]

- ① 活気に満ちた農林水産業の形成
- ② 競争力と魅力がある産業の形成
- ③ 新たな需要を取り込み地域産業の活性化

取組みの方向性

(1) デジタルの活用等による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化

(2) 産官学及び企業間の連携とデジタルの活用等による競争力強化とイノベーション創出、起業環境の醸成
観光産業の生産性向上と観光地経営の高度化による「稼げる地域」の実現

(3) 三大都市圏に近接する強みを活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化

SWOT分析による検討のポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組み

・「農林水産業の担い手不足(弱み)」
× デジタルを活用したスマート農林水産業
⇒ 生産性の向上、供給力強化

・「北陸の食材・食文化(強み)」
× デジタルによる情報発信
⇒ 高付加価値化・ブランド化

・「ものづくりニッチトップ企業の集積(強み)」
× デジタルの活用(先端技術)
× 産官学等の連携
⇒ 競争力強化、起業環境の醸成

・「三大都市圏と等距離の地理的条件(強み)」
× リニア中央新幹線(品川-名古屋間開業)
⇒ 巨大経済圏との連携強化

・「北陸圏が有する太平洋側のバックアップ機能への期待(強み)」
× 太平洋側での巨大災害のリスク
⇒ 災害リスクの分散(企業誘致)の受け皿

次期広域地方計画の検討③：目標の実現に向けた取組みの方向性

目標3 日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

目標 [小項目]

取組みの方向性

SWOT分析による検討のポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組み

①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

(1)日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実

・「北陸圏が有する太平洋側のバックアップ機能への期待(強み)」
・「三大都市圏と等距離の地理的条件(強み)」
× 太平洋側での巨大災害リスクへの対応
⇒災害時の物流・交通のバックアップや支援を含む三大都市圏とのネットワーク強化

次期広域地方計画の検討③：目標の実現に向けた取組みの方向性

目標4 交流・関係人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

目標 [小項目]

- ①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化
- ②三大都市圏等との新たな交流
- ③様々な人とつながる北陸圏

取組みの方向性

(1)北陸の伝統産業や歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実

(2)北陸新幹線延伸やリニア中央新幹線開業を契機とした圏域内外との新たな交流圏の形成

(3)様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大

SWOT分析による検討のポイント

「強みまたは弱み」 × 「機会または脅威」 ⇒ 取組み

・「豊かな自然、歴史文化等の観光資源(強み)」
× デジタルによる情報発信・ワーケーション
⇒ 観光客の増加、観光関連産業の需要拡大

・「三大都市圏と等距離の地理的条件(強み)」
・「豊かな自然、歴史文化等の観光資源(強み)」
× 北陸新幹線敦賀延伸
⇒ 観光客の増加、観光関連産業の需要拡大、
ゴールデンルート(東京-名古屋-京都-大阪)へと繋がる新たなゴールデンルートとして位置づけ

・「北陸圏が有する資源、環境、つながり」
× 様々な機会
⇒ 関係人口の拡大

※ 有識者懇談会からの意見を踏まえて追加